

活 動 記 録 書

開 催 日： 令和7年 10月2日(木) 天候 晴	開催テーマ： 釜利谷の古刹住職のお話を聞く
開催場所：横浜市金沢区	記 入 者：金久保常二
参加人数： 会員27名 ビジター 3名 計 30名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース：金沢文庫駅西口広場(集合)～金中橋～中州橋～手子神社～釜利谷小川アメニティ～福松橋～自性院、山王権現社～禅林寺(住職のお話、本堂拝観、解散) 金沢文庫駅西口に集合し、駅前広場をお借りして、資料配布、朝の挨拶、ガイド紹介の後、宮川沿いに歩いて釜利谷の鎮守手子神社に着く。釜利谷の領主伊丹左京亮が、文明5年(1473)瀬戸神社の分霊を宮ヶ谷に祀ったのが起源。祭神は大山祇命(オオヤマツミノミコト)。延宝7年(1679)伊丹左京亮末裔・江戸浅草寺の智楽院忠雲が現在地に再建した。境内には千尋の谷から這い上がる子をじっと待つ親、右が父子、左が母子の狛犬や、石灯籠形の庚申塔などは珍しい。また石窟に竹生嶋弁財天が祀られている。蛇の上に人の顔がのっている宇賀神像が祀られている。庚申塔6基・馬頭観音4基・観音塔2基を祀る。 次は、川の源流近くで、自然の景観が残されている場所を水が溢れないような対策を行い、周辺の環境との調和を配慮した整備事業の、釜利谷小川アメニティの自然を生かした散策路を通り抜けて福松橋を渡り自性院へ到着。真言宗御室派。本尊は聖観世音菩薩。寺伝によると伊丹三河守が二人の子供の菩提を弔うため、永正年間(1504～20)に創建したとのこと。寛永11年(1634)幕府御用の菓子商大久保主水忠行の夫人連臺院妙乗日宝信尼が建てたといわれる宇賀山王社が本堂右側の山際に祀られている。本尊の聖観世音菩薩とは別に、焼けただれた高さ30cmほどの聖観世音菩薩が黒厨子に納められている。その厨子に天保8年(1837)に10代目大久保忠記の裏書がある。それによると、宝暦(1751～64)中頃盗人がこの尊像を盗み近くの鍛冶屋で火床の中に投げ込み、延金にしようとしたところ、いくら苦心しても観音菩薩の尊像が崩れなかったので、捨てられてしまった。約10年後に道端で発見され、長い年月を経てお寺に戻ったという。 最後に訪問した寺院は曹洞宗の禅林寺。ここでは住職の法話を拝聴したのち、本尊の薬師瑠璃光如来ほか脇侍などを間近に拝観することを許された。金澤ガイドの事前折衝の賜物と蔭ながら感謝する。足利持氏が創建しその息子足利成氏の要請で、明応2年(1493)に下総東昌寺二世能山聚芸禅師が入山したと伝えられる。その後荒廃していたが、伊丹三河守永親が再興した。伊丹一族との関係で安永9年(1780)に東照大権現(徳川家康)の御神影が下賜された。毎年家康の命日の4月17日に一般公開されている。 境内には赤く美しい花を咲かせる彼岸花が、秋のお彼岸の名残りとして花を咲かせている。穏やかな天気でその境内で解散をした。	
参加者の状況・意見など 天候に恵まれ、今月も無事巡拝を完了したことに感謝したい。	
次回の予定： - 令和7年11月6日(木)10時 JR 藤沢駅集合 - テーマ：時宗総本山遊行寺で本堂昇堂参拝	